

新環境工場敷地造成工事（5 工区）

特記仕様書

令和 2 年 1 2 月

菊池環境保全組合

目 次

1-1	本工事の概要	2
1-2	施工に関する特記事項	2
1)	接続等工事ならびに仮設工事の負担	2
2)	工事工程	2
3)	安全対策	2
4)	残存工作物	2
5)	地中障害物	2
6)	建設廃棄物	2
7)	工事用車両の搬入出経路等	3
8)	仮設工事	3
9)	測量及び地質調査	3
10)	施工方法及び建設公害対策	3
11)	作業日及び作業時間	4
12)	工事实績情報の登録	4
1-3	工事仕様	5
1)	施工計画の承諾	5
2)	施工計画の変更	5
3)	仮設計画	5
4)	準備工事	5
5)	排水構造物工事	5
6)	土工事	6
7)	舗装工事	6
8)	付帯設備工事	6

用語の定義

新環境工場敷地造成工事（5 工区）特記仕様書で用いる用語を以下のとおり定義する。

組合

菊池環境保全組合をいう。

本工事

新環境工場敷地造成工事（5 工区）をいう。

受注者

組合と工事請負契約を締結し、本工事を実施する者をいう。

並行実施工事

新環境工場雨水調整池工事（2 工区）、新環境工場（ごみ処理施設）建設工事、新最終処分場埋立地建設工事、新最終処分場浸出水処理施設建設工事をいう。

1-1 本工事の概要

敷地造成工事のうち排水工及び舗装工事として主に以下の工事を実施する。

- ・排水構造物工
側溝敷設工、柵敷設工、ボックスカルバート敷設工
- ・土工
掘削工、床堀り、土砂運搬工、整地工
- ・植栽工及び防護柵工
植栽工、防護柵工
- ・舗装工
不陸整正工、路盤工、アスファルト舗装工、区画線工、撤去工など

1-2 施工に関する特記事項

1) 接続等工事ならびに仮設工事の負担

本施設に関する電力、上水、井水及び電話の取合点から本施設までの接続等工事については、受注者の負担で行うものとする。

また、工事中を含む全ての仮設工事についても受注者の負担で行うものとする。

2) 工事工程

受注者は、工事着工前に工事工程表を組合に提出し、承諾を得ること。

3) 安全対策

受注者は工事中の安全に十分配慮し、県道の工事案内板や安全設備を設置するなど、工事用車両を含む周辺の交通安全、また現場の安全管理に万全の対策で臨むこと。工事用車両の搬入、搬出については周辺の一般道利用に支障がないよう配慮するものとし、特に周辺道路の汚損を防止すること。

4) 残存工作物

工事区域になんらかの工作物があつた場合は、組合の承諾を得て本工事の障害となるものを撤去処分すること。なお、本工事により発生する残材等は、菊池環境保全組合の管理する既存施設（東部清掃工場ならびに環境美化センター再資源化工場）においては処理しないこととする。

5) 地中障害物

地中障害物の存在が確認された場合はその内容により組合と協議し適切に処分すること。

6) 建設廃棄物

本工事で発生する廃棄物の処分は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「建設廃棄物処理ガイドラインのマニフェストシステム」等に基づき、受注者の責任において処分すること。

なお、発生する廃棄物の処分先については、あらかじめ組合の承諾を受けること。場外処分を行った場合には、搬出先の受入証明書並びにマニフェストの写しを提出すること。

7) 工事用車両の搬入出経路等

工事用車両は、原則として、県道住吉熊本線から搬入道路1を経由して工事区域に搬入すること。なお周辺地区から県道住吉熊本線までの経路については、組合からの指示に従うこと。

受注者は安全性・効率性を考慮した工事中の動線計画を検討すること。

県道住吉熊本線からの車両の出入り及び車線規制にあたっては、必要に応じて警備員を配置し行き先案内を行い、一般車両の通行に支障をきたさないように通行時間帯をずらすなどの配慮を行うこと。

なお、原則として工事用車両の待機は組合の指定する区域で行い、周辺道路に支障とならないようにすること。

8) 仮設工事

- ・受注者は、仮設工事を行う前に仮設計画書を提出し、組合の承諾を得ること。
- ・駐車場については組合と協議の上、確保すること。
- ・正式な引渡しまでの工事用電力、電話及び水は受注者の負担にて、関係官庁と協議の上、諸手続きをもって実施すること。
- ・必要に応じてバリケード等仮囲いを設置すること。仮囲いは、公衆用道路に面する箇所及びその他必要な箇所に施工し、施工期間中の維持管理を十分に行うこと。
- ・周辺住民への情報提供のため、工事の進捗状況を報せる掲示設備を設けること。

9) 測量及び地質調査

必要に応じて測量及び地質調査を実施し、調査結果は組合に報告すること。

10) 施工方法及び建設公害対策

- ・工事用車両は、事業実施区域内で洗車を行い、車輪・車体等に付着した土砂を十分除去したことを確認した後退出すること。
- ・騒音・振動が発生しやすい工事については、低騒音型工事用機械及び低騒音・低振動工法を採用し、建設作業に係る騒音・振動の基準を遵守するとともに、できるだけ低減を図ること。
- ・必要に応じて施工箇所に仮囲いを設置し、建設作業騒音の低減を図ること。
- ・必要に応じて施工箇所に防音シートを設置し、建設作業騒音の低減を図ること。
- ・施工現場でほこりが発生する恐れのある場合は、適時散水を行うなど必要な措置を行うこと。
- ・工事車両が通行する道路等に対する養生を十分行うこと。本工事に起因する車両により、道路補修等が必要となった場合は、組合の承諾を得て適切に補修すること。
- ・降雨時の工事を極力避けることにより、濁水の発生を軽減すること。

- ・ 工事中は、気象情報を常に把握し、強雨が見込まれる場合はシート等により裸地面を被覆することにより、濁水の発生を軽減すること。

11) 作業日及び作業時間

作業日は、原則として、日曜日、祝日及び年末・年始を除いた日とする。作業時間は、原則として午前 8 時 00 分から午後 5 時までとする。なお、緊急作業、中断が困難な作業、交通処理上止むを得ない作業または騒音・振動を発する恐れのない作業等、合理的な理由がある場合については、組合の承諾を得ることで、上記の日時以外に行うことも可能とする。

12) 工事实績情報の登録

工事請負契約の契約金額が、工事实績情報システム（コリンズ）が適用される金額となった場合、一般財団法人 日本建設情報総合センター（ジャシック）に登録すること。

1-3 工事仕様

新環境工場敷地造成工事（5 工区）の内容は「新環境工場敷地造成工事（5 工区） 実施設計図」に基づき実施する。

1) 施工計画の承諾

受注者は、本工事着手前に下記の事項を含んだ施工計画書を提出し、組合の承諾を得なければならない。また、必要に応じて施工図を提出し、同様に組合の承諾を得なければならない。

- ①工事概要
- ②計画工程表
- ③現場組織表
- ④安全管理
- ⑤指定機械
- ⑥主要資材
- ⑦施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む）
- ⑧施工管理計画
- ⑨緊急時の体制及び対応
- ⑩交通管理
- ⑪環境対策
- ⑫現場作業環境の整備
- ⑬再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法
- ⑭その他要求水準書に明記されているもの

2) 施工計画の変更

施工計画または施工図を変更しようとする場合は、あらかじめ組合と協議し、承諾を得ること。

3) 仮設計画

工事に必要な受電設備等の仮設設備は、施工計画に基づき組合と協議し、設置撤去するものとする。

4) 準備工事

受注者は、設計書・図面等により現場の地形構造を把握すると共に、埋立地の状況や構築する構造物の設置位置等を事前に明確にすること。

5) 排水構造物工事

(1) 基礎

水路基盤が盛土となる区間は、現地盤の段切りを行った上で十分な締固めを行うこと。特に、切盛境は入念に施工すること。

(2) 埋戻し

埋戻しに当っては構造物を損傷しないように留意し、特にプレキャストコンクリート水路部分は偏心・偏圧のかからないように埋戻し材で左右均等に層状に十分突固めること。

(3) 出来形

埋戻し前に組合の構造物出来形承諾を受けること。

6) 土工事

(1) 地質分類線

造成工事中は地質(地質分類線)のチェックを行い、設計図書と地質が著しく異なる場合は、すみやかに組合に報告し、指示を受けなければならない。

(2) 掘削

- ・掘削施工中、自然に崩落、地すべり等が生じた場合、あるいは、これらの生じるおそれがある場合は、すみやかに組合に報告し、指示を受けなければならない。
- ・掘削等に使用する重機は、排出ガス対策型とする。

7) 舗装工事

(1) 調査

舗装に先立ち、路床の現場C B R試験を行い、その結果を報告し、組合の指示を受けること。

(2) 排水勾配

舗装の施工は、排水施設の配置を考慮し、路面排水が取れるよう施工すること。

8) 植栽工及び防護柵工事

(1) 植栽工

植栽する樹種は環境影響評価の現地調査で確認され、当該地域に生息していた種を用いることを原則とする。なお、原積算基準額については、「高木(アラカシ・スダジイ)×12,573本、中木(ヤブツバキ・ネズミモチ・ヒサカキ)×10,950本、低木(アオキ)×7,055本」の額となっているが、実施の際には「事業区域内で確認された樹種一覧」の中から調達可能な樹種及び設置位置について、施工図を提出し組合の協議承諾を得ること。なお、設計変更対象とする。

(2) 防護柵工

施工に先立ち、防護柵の計画ルート沿いの地形、地質、植生状況等を現地踏査し、施工図を提出して組合の承諾を得ること。

事業実施区域内で確認された樹種一覧

生 活 型	樹 種
常緑高木	ツブラジイ・スダジイ・アラカシ・クスノキ・ヤブニッケイ・ タブノキ・シロダモ・ナナミノキ・クロガネモチ
落葉高木	クリ・クヌギ・ナラガシワ・コナラ・ムクノキ・エノキ・ケヤキ・ ヤマグワ・ヤマザクラ・カラスザンショウ・ニワウルシ・ニガキ・ センダン・ハゼノキ・ヤマハゼ・ヤマウルシ・ゴンズイ・ネコノ チチ・クマノミズキ・タラノキ・カキノキ・エゴノキ
針葉樹	スギ
常緑中木	シキミ・ヤブツバキ・ヒサカキ・ネズミモチ・クロキ・シュロ
落葉中木	イヌビワ・ヤマコウバシ・アカメガシワ・ヌルデ・ムラサキシキ ブ・マユミ・クサギ・ニワトコ
常緑低木	チャノキ・アオキ・カラタチバナ・ヤブコウジ
落葉低木	ケカマツカ・イノバラ・コマユミ・オカウコギ・ボタンクサギ

成木・未成木・幼木（苗木）の樹高区分

樹種区分	成木	未成木	幼木（苗木）	備 考
高木性樹種	3.0m以上	1.5～3.0m	1.5m未満	将来 6m以上に成長するもの
中木性樹種	1.5m以上	1.0～1.5、	1.0m未満	将来 3m程度に成長するもの
低木性樹種	すべて成木扱い	—	—	将来 1m程度に成長するもの